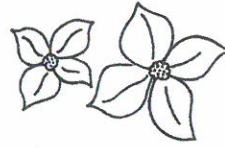




# やまぼうし



社会福祉法人 市島福祉会

認定子ども園 いちじま子ども園

〒669-4321

兵庫県丹波市市島町上垣138-1

(☎) 0795-85-2330

(fax) 0795-85-2335

http://www.ichijima-kodomoen.com

子どもHP



<教育・保育理念>

受容・信頼・貢献感

いきよう

ちからいっぱい

じぶんらしく

まっすぐに

## 話し合って解決する

人と生活していく時に、お互いの気持ちを伝え合う事はとても大切です。子ども達と話をしていると、嬉しい気持ちや面白かった事など、色々な事を話してくれま  
す。保育者は子どもと目線を合わせ、うなづいたり相づちを打ったり「それで？」と  
子どもが話しやすいように次の言葉を聞き出したりしながら丁寧に話を聞くよう  
にしています。

特に、子ども達が大きくなっていく上で、誰かに「困っている」と言える事はとても  
重要です。まわりの大人に伝える事で、困った事が解決した経験をすると、子ども  
達同士でも困った事を伝え合い、自分たちでその問題を解決しようとし始めます。  
そのため、子どもの気持ちをよく聞き、共に考える姿勢を大切にしています。

子ども達がお互いに気持ちを伝え合い、その問題に向き合う経験は、誰かと一緒  
に生活をする事をスムーズにしていくはずですが、子どものうちに思いをぶつけ合い、  
よく話し合う事で相手の気持ちに気づき、相手の立場に立つて考え、自分の気持ち  
を調整し、友だちと折り合いをつけながら行動できるようになっていきます。そのよ  
うな経験の積み重ねが、「道徳性や規範意識」の育ちへとつながっていくのです。

▼4・5歳児はクラス全体で話し合う事が  
できます。お互いの言葉を丁寧に聞こうと  
しています。



劇あそび  
どうする?

「ともだちや」が  
やりたい!

▼絵本を誰がどこから  
見るか相談していま  
した。



▲遊び方を決めています。

ちいさな積み重ねの毎日。  
大切な時間です。



▲玩具の使い方、誰がどれくらい使うか考え  
譲り合っています。

## 倉橋惣三の言葉

よろこびの人は、

子どもらのための

小さき太陽である。

明るさを<sup>わか</sup>頒ち、温かみを伝え、

生命を力づけ、生長を育てる。

見よ、その傍に立つ<sup>こ</sup>どもらの

顔の<sup>さき</sup>照々として輝き映ゆるを。

なごやかなる生の幸福感を受け

充ち溢れているを。

「育ての心」より

倉橋惣三(1882、1955)

「日本のフレイブル」あるいは「日本の幼児教育の父」と呼ばれる幼児教育学者。倉橋が展開した子ども  
の心に徹底的に寄り添い、子どもの遊びや自発性  
を重視した幼児教育論は、まさしく現代に通じる  
もの。誘導保育論が特に有名である。

